



ほっとと



10月1日に新任期保健師交流会を開催しました。

高知会場は6名、幡多会場には6名の参加があり、仕事で楽しかったこと、辛かったこと、私のストレス発散法について自分の考えていることを出しました。

テーマに沿って、ケーキやコーヒーをいただきながら、話し合いました。職場がそれぞれ違っていても、話し合いになると、「私の話したい事」が自然に言える姿は、皆さんも、さすが保健師ですね。「仕事で楽しかったことは？」の質問には、多くの方が、「保健師としてかかわった住民さんから、感謝されることが、嬉しく仕事の喜びにつながっている」ようでした。「ストレス発散法は？」の質問には、「自分が好きなこと没頭すること。職場の人に話をしっかり聞いてもらうこと。」がでていました。「うちの職場は皆が優しい。とてもいい職場。」と話してくれた方もいました。しっかりどこの職場が聞き取っていますよ。お酒を飲むことやおいしい物を食べるに行く事は、みんな共通のストレス発散で、笑いもあり特に話が盛り上がりました。



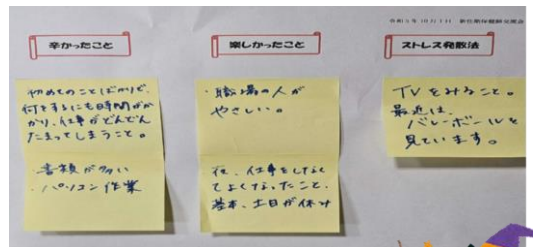
先輩保健師 三原村保健師 川谷 萌さんの「保健師5年目から伝える楽しく仕事ができる理由」の話にみんなで聞き入りました。

若いZ世代の皆さんに休日に声をかけても参加してくれるかな？と心配でしたが、「職場の先輩に促されて参加しました。」というわりには、前向きな姿勢で話し合いができました。

また、交流会の中で、「職場の皆さんが優しい」と話す職場では、「相談しやすい。気にかけてくれる人がいる」という雰囲気がある。」が新任期の皆さんの成長に大切なことに改めて、自分の職場でも、そんな雰囲気を作るように自分も心がけたいと感じています。

また、「必ず受けなければならない研修会に交流会を位置づけると参加しやすいです。」との意見もあり、人脈を広げるための時間を研修の一環として、交流の時間を作ることもあえて必要なことだと考えています。でも、何よりも、あつまっておいしいケーキと和やかな話し合いの時間がとても担当として嬉しいひとときでした。

参加して下さったみなさんありがとうございました。



HALLOWEEN



保健師・助産師・看護師職能合同集会を開催しました。

■日時 令和5年7月3日(日)

■場所 高知県看護協会及びweb参加

テーマ:「コロナ禍からWithコロナ時代への移行を看看連携で支える」

新型コロナウイルス感染症は5月に2類から5類に移行されましたが、3職能がこれまでに体験した事例について意見交換を行い、今後想定される看護課題やその対応策について考える機会となりました。



保健師

「多機関多職種協働での新型コロナウイルス感染症対応」

高知市地域共生社会推進課 朝比奈 亜希子
高知市南街・北街・江ノ口地域包括支援センター 田村 良子

保健師職能からは、高知市保健所の新型コロナ感染症対応について報告を行いました。

新型コロナウイルス対応は、その規模や期間においてこれまでに経験したことのない感染症対応であり、高知市では新規採用保健師から中堅期・ベテラン保健師までが総動員され、朝から深夜まで、必死に市民の健康観察、医療調整等を行ってきました。

第7波のピーク時には、1日当たり2,000人ものが発生し、その人数が療養期間中積み重なっていくため、毎日6,000人を超える療養者の健康管理を行うのが我々の役割でした。鳴りやまない電話への対応や、困難な医療調整により疲弊もしましたが、入院・外来受け入れ医療機関や高知県の関係部署はもちろん、医師会や薬剤師会の皆さま、訪問看護の皆さま、往診の先生方、福祉関係職の皆さま等多くの人や組織に助けられ、大きな山を乗り越えることができました。

第8波では、発生届の対象が高齢者や妊婦、持病があり重症化が懸念される方などのハイリスク者に絞り込まれたため、対応が必要な患者の桁数が変わり、また、第7波の経験と人脈を生かして対応を行うことができました。保健師として行ってきたのは、患者さんの健康観察、自宅訪問などの直接支援に加え、患者データや業務データを蓄積・分析し、保健所医師とともに市民の命をどう守るか、次の波にどう備えるか、事務職や外部の支援機関とどう連携し支援者を増やしていくか、という活動でした。

保健師1人ひとりの力は微力ですが、様々な職種や支援機関とつながり、組織として対応することで、保健所保健師としての活動を果たすことができました。高知市のコロナ対応にご協力くださったすべての皆様に心から感謝申し上げます。



助産師

高知大学医学部附属病院より「新型コロナウイルスに罹患した精神疾患合併妊婦の退院支援」として、妊娠期から地域を交えた退院支援について検討していた患者が、コロナウイルスに罹患したことで予定が大幅に変更となり、母子分離を余儀なくされた。その後の精神疾患の悪化により入院となったが、長期間、家族・地域と連携し本人も育児に参加できるようになった事例でした。

看護師

【看護師Ⅰ領域】

高知医療センターより「COVID-19罹患後退院困難となった事例」として、要介護4、化学療法中で免疫力が低下し、認知機能低下も出現。自宅への退院により家族やサービス提供者に感染リスクが生じることを理由に、退院を拒否された事例。多職種カンファレンスでの方向性の検討が十分に行えなかった等、課題が残る事例でした。

【看護師Ⅱ領域】

ケアハウス花の郷高知より「介護施設のクラスター対応」として、高齢者施設でのクラスター発生時の様々な問題点や、終息後も続く問題として、職員のモチベーション低下や介護人員不足など様々な課題を抱えている事例でした。



6月9日に東京ベイ幕張ホールにて全国保健師交流集会が開催されました。高知県保健師職能委員からは野口裕子委員と私が参加しました。

基調講演では、「保健師活動基盤調査により、コロナ禍で明らかになった保健師活動における課題解決に向けて」というテーマで講演があり、シンポジウムではポストコロナにおいて活動領域を超えた看護職間の連携強化に向けて話題提供がされました。

私自身も新型コロナウイルス感染症の猛威を経験することで、改めて保健師の持つ公衆衛生の視点の重要性や看護職間の連携の必要性を強く感じ、一口に「連携」というけれど、いろんな「連携」があり、それぞれの看護職が担える役割を「連携」の具体として明確に見える化していく必要があるのではないかと思います。

一方で、これから採用される保健師が、現場で元気に育てる仕組みづくりも大きな課題だと感じています。コロナ禍に採用された保健師の不安や悩み、人材育成に時間をさけなかった現場の実態を振り返る中で、健康危機管理に対応できる人材育成を進めていくためにも、日頃の住民との関係づくりや保健活動が担える保健師の育成は確実に進めていく必要があります。

日看協からは今回の集会でも保健師活動指針の改定や、それに伴う保健師の資質向上のための研修プログラムの検討が行われる話が紹介されましたが、全国共通で学ぶ保健師に求められる機能と高知県の保健師マインドを引き継いでいく要素を融合していくためには、やはり、現場でのOJTが重要です。保健師職能委員会がファシリテーション研修として取り組む事例検討などを通して学びあうこともその具体として活かしてもらえると嬉しいです。



保健師の成長につなぐ～みんなで育ちあう事例検討の研修をとおして～

四万十市健康推進課 西内美和

8月31日、市町村保健衛生職員協議会保健師部会幡多ブロック保健師研修会において、高知県看護協会保健師職能委員長窪田純子さん、保健師職能委員川本美香さんに来ていただき、研修をしていただきました。

この研修会を企画するきっかけは、保健師職能委員会主催の研修会に参加した保健師が、須崎市の取り組みや高知県立大川本先生他の講義を聞き、処遇検討が目的の事例検討が多い中、保健師自身の活動の振り返りやそれを言語化し共有することで育ちあえる方法として整理されたものであり、須崎市の実践報告でも効果を感じられたと聞き、ぜひ保健師部会幡多ブロック保健師研修会をできたらということから計画されました。

幡多管内は6市町村あり、人材育成の一環として事例検討を行っている市町村もあれば、実施していないところもあり各市町村によって取り組みは様々です。また、新任期保健師も多く保健師全体の人材育成はどの市町村においても重要です。その中で、事例検討は職場内で行え、一堂に会して共有することができ、保健師の実践力の向上が期待できます。

研修会では、34名の参加で経験年数は、新任期が12名、中堅期(5～19年)が14名、20年以上が4名(回答分)でした。

アンケート結果では、「自分自身の活動を振り返る方法として言語化することで情報を整理することができる」と分かった、「事例検討を実施しながら保健師とは何か、ということを考えながら実践したいと思った。」「今やっている事例検討会を大切にしていきたい」と改めて思った。」「保健師観について考えるいいきっかけになった。自己の強み、弱みを整理し、業務、住民に向き合っていきたい。」など今回の研修が実りある研修となりました。

講師をしてくださった、窪田委員長、川本委員には大変お世話になりありがとうございました。



第3弾「突撃！隣の保健師さん」 地域の保健師さんのお仕事を紹介していきます。

地域包括支援センターの保健師として

仁淀川町 地域包括支援センター
掛水房美

平成11年に入職し、13年間の地区担当保健師を経た後、平成24年から地域包括支援センター(以下、包括と書く)に異動になりました。その後、平成31年に1年間だけ保健師の花形(と私が勝手に思っている)である健康推進担当に異動しましたが、令和2年から包括に戻り、通算10年がたとうとしています。

包括には、保健師、社会福祉士、主任ケアマネジャーの3職種を配置することになっていますが、今年の4月から課内異動により私の役割は主任ケアマネジャーとなり、日々の業務でもケアマネさんとの関わりが多く、ケアマネジャーの人材育成や働きやすい環境づくりに気持ちが向き、自分が保健師であることを忘れてしまいがちです。

ケアマネとして自分が担当している方への関わりや、新たに介護認定申請が出た方の認定結果が出る(担当ケアマネさんに引き継ぐ)までの調整支援、介護認定にはつながっていない気になる方への関わり…など、包括は日々ケース対応に追われることが多いです。

ケアマネとして初めて担当した方が自死された時には、命の儚さと自分の無力さを痛感し、今後担当を持つことも、訪問に出ることも怖くなったこともありました。ケアマネは保健師とは少し違ったケースに対する責任を感じることもあります。

保健師としての私の短所は、ケースの感情に巻き込まれてしまうところです。以前の上司に「巻かれて巻かれて、どこに巻き込まれたのかもわからなくなっちゃうで…」と苦笑されたこともあります。そんな私が、24年間保健師を続けられたのは、やはり住民さんからの「ありがとう」という言葉と、日々愚痴や相談を聞いてくれる職場の上司、同僚、後輩の存在です。

たった1年間だけでしたが、健康推進担当に携われたことで、ライフステージすべてが介護予防につながっていることを実感しました。花形は1年間だけでしたが、良かったです(笑)

保健師交流会のご案内

テーマ「育ち育ち合う ～温故知新 昭和、平成、令和 そして未来へ～

「保健師交流会」は、市町村衛生職員協議会、保健師職能団体、教育機関、高知市、高知県の有志の保健師が実行委員会を立ち上げ、3つの目的をおき、平成25年度に第1回大会が開催されました。3つの目的は「保健師の仲間で自由に語り合いエンパワメントされる」、「高知県の保健師の歴史振り返り、高知県で働く保健師の良さを継承する」、「保健師の専門性を再確認し、自分たちの今後の保健師活動に活かしていく」というものです。コロナ禍で、近年開催が叶いませんでしたが、今年度は実行委員会を結成し、開催することとなりました。

高知県保健婦駐在制度から現在までの保健師活動のご経験から、今の時代の保健師へのメッセージをいただくご講演と、新任期・中堅期・熟練期/管理期という各期にある保健師から、ありのままの保健師活動としての話題提供、そしてそれらをおしたワールドカフェを企画しています。この機会に皆で集まって、育ち合いませんか？



日時 : 令和6年1月20日(土)13時30分～16時30分 予定
受付開始13時～
場所 : 高知市春野文化ホールピアステージ 小ホール
(高知市春野町西分340番地)
参加費 : 500円(予定)
お申し込み : 改めて職場にチラシ等でご案内させていただきます。

編集後記

今年は秋が来たかと思えば、日中は夏の暑さで、突然冬の到来になりそうです。季節外れのインフルエンザ感染症も流行し、みなさんもお忙しいと思いますが、しっかり休んで、心身ともに元気に過ごしてください。

